

## 事業評価（案）

評価時点：事後評価

計画名称：社会資本総合整備計画事業

- ・美園地区都市再生整備計画

《都市局まちづくり推進部浦和東部まちづくり事務所》

## 公共事業評価調査《事後評価・社会資本総合整備計画事業》

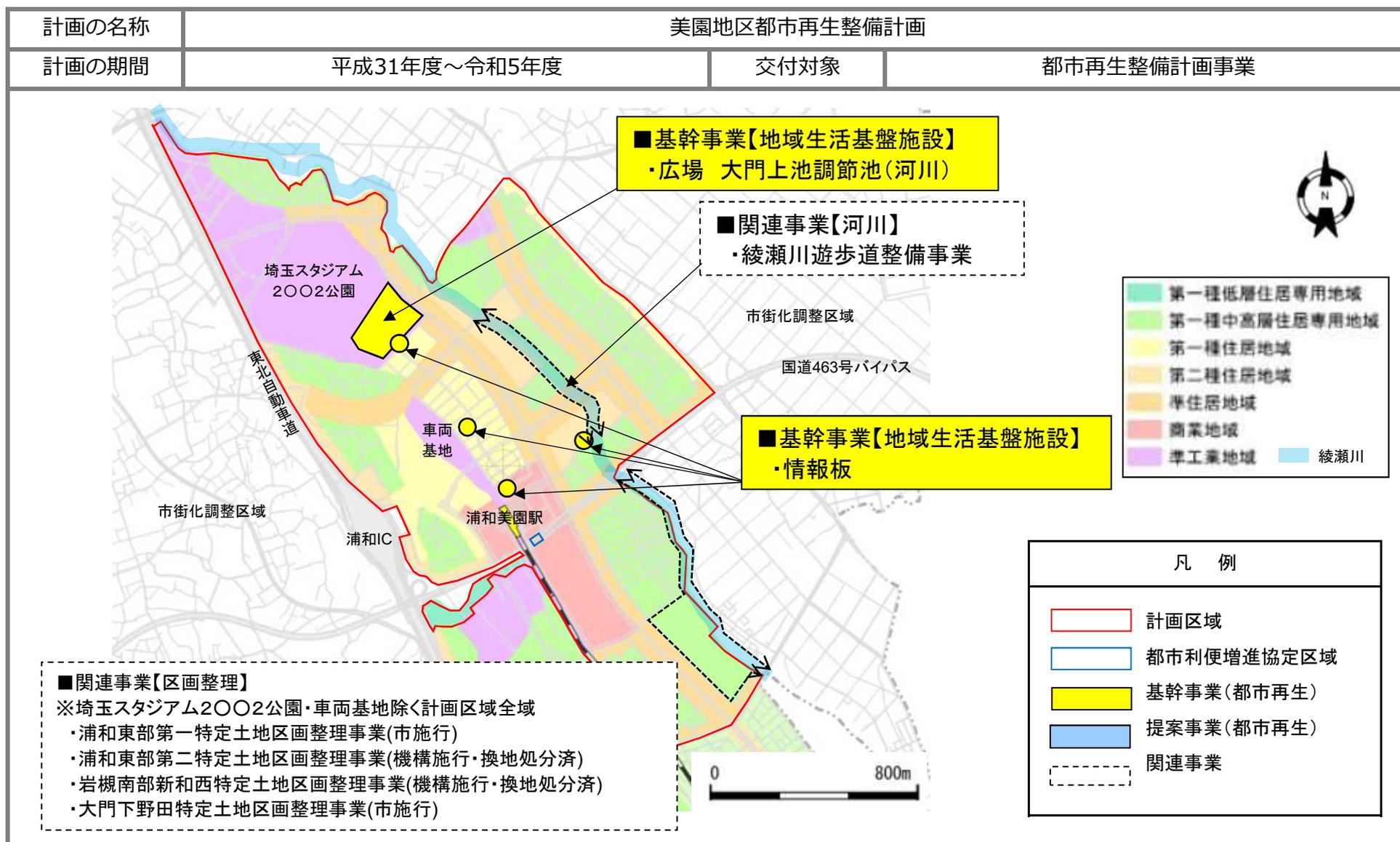
(1) 概要									
計画(事業)の名称		美園地区都市再生整備計画							
計画(事業)の期間		平成31年度 ～ 令和5年度(5年間)							
計画の目標		さいたま市の副都心の一つとして、本地区の象徴たる埼玉スタジアム2002公園をはじめとする地域資源を生かしながら、スポーツ・健康・環境をテーマとした良好な都市環境を形成する。 目標1:市の副都心に相応しい都市環境を形成する。 目標2:健康を育み、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境を形成する。 目標3:低炭素・循環型の持続可能な都市環境を形成する。							
計画の成果目標 (定量的指標)		地区内実施イベントの年間来訪者数を361,108人(平成30年)から450,000人(令和5年度)に増加させる。 さいたま市市民意識調査の「スポーツ・レクリエーションの振興/活動環境の充実」に関する満足度を14.8%(平成27~29年度の3年間の平均値)から18.5%(令和3~5年度の3年間の平均値)に向上させる。							
定量的指標 の定義及び 算定式	指標	定量的指標の現況値及び目標値							
				当初現況値		最終目標値			
				(年度)		(年度)			
		指標①	地区内実施イベントの年間来訪者数(※埼玉スタジアム2002でのプロ試合観戦者数を除く。)	361,108		450,000			
指標②	さいたま市市民意識調査にて「スポーツ・レクリエーションの振興/活動環境の充実」に対して「満足」と回答した人の割合(※3年間の平均値)	14.8		18.5					
指標③									
全体事業費	合計(A+B+C)	281(百万円)	A	281(百万円)	B	(百万円)	C	(百万円)	
(2) 事業効果の発現状況、目標値の達成状況									
I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況		・大門上池調節池の広場整備により、イベント等が実施されることにより来訪者数が増加した。							
II 定量的指標の達成状況	指標①	最終目標値	450,000人	目標値と実績値に差が出た要因	R2年からの新型コロナウイルスの流行による屋外イベントの開催数ならびに来訪者数が減少したことにより目標値を下回ったと考えられる。				
		最終実績値	370,715人						
	指標②	最終目標値	18.5%	目標値と実績値に差が出た要因	大門上池調節池広場が整備されたことで、地域住民の様々なスポーツ活動や健康づくりに寄与し、加えて情報板の設置により歩行回遊性の向上、公共・公益施設の案内表示により日常的な運動実施のきっかけづくり、習慣化に寄与したことで目標値を上回ったと考えられる。				
		最終実績値	20.0%						
	指標③	最終目標値	%	目標値と実績値に差が出た要因					
		最終実績値	%						
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		・大門上池調節池広場が整備されたことで、地域住民が様々なスポーツや健康づくりができるようになったことに加えて、イベント開催により外から人を呼び込む賑わい・交流の場となった。 ・情報板が設置されたことで、埼玉スタジアム2002公園をはじめとする地区外からの来訪者数が多い施設が立地する本地区において、ウォークビリティ・回遊性が向上した。							
(3) 今後の方針									
・都市基盤が概成し、今後土地活用が本格化するにあたり、オープンスペースの利活用促進、歩行環境・交通利便性の向上など、地域資源を活かしながら空間の質を高め、“美園”に暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人それぞれにとって心地よい都市環境の維持・向上が必要									
・埼玉公園でのイベント開催時における賑わい・交流だけでなく、日常的に多様な都市活動が生まれるような都市環境の形成が必要									
・地区内の滞在快適性に寄与する環境・設備等は拡充の途上段階であることから、賑わい・交流創出を目的とした「みその都市デザイン協議会」で実施しているイベントや地域のスポーツ活動等において、休憩できる設備の不足等により事業の活性化が図られていないため、これらの改善が必要									
・賑わい・交流の拠点を埼玉公園や大門上池調節池広場のみならず、地区全体へ拡大し、地域内外の人々がスポーツ・レクリエーションにおいても親しみやすい環境を面的な形成が必要									

(様式2)

<b>(4) 交付対象事業の詳細</b>										
A 基幹事業										
番号	要素となる事業名 (事業箇所)	事業種別	事業内容 (延長・面積等)	事業実施年度					全体事業費 (百万円)	備考
				H31	R2	R3	R4	R5		
1	美園地区都市再生整備計画事業	都市再生	A=42,000㎡	■					277.6	
2	美園地区都市再生整備計画事業	都市再生	4基					■	3.5	
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
合計									281.1	
B 関連社会資本整備事業										
1										
2										
3										
合計										
C 効果促進事業										
1										
2										
3										
合計										

<b>担当部局</b>	都市局まちづくり推進部浦和東部まちづくり事務所 TEL : 8 7 8 - 5 1 4 3 FAX : 8 7 8 - 5 1 4 5 E-mail : urawa-tobu- machidukuri@city.saitama.lg.jp
-------------	---

参考図面



# 社会資本総合整備計画 事後評価説明資料

---

美園地区都市再生整備計画

令和6年10月

さいたま市都市局まちづくり推進部浦和東部まちづくり事務所

# 背景

## 美園地区

- 本市の副都心
- 大規模な土地区画整理事業を施行
- 「埼玉スタジアム2002」などの地域資源を生かしながら、“スポーツ、健康、環境・エネルギーを軸に先端的なライフスタイルを創造する副都心地区”の形成を目指す
- 副都心の都市機能の向上、まちのブランド差別化を図るために、「公民＋学」による都市環境を形成



(一社)美園タウンマネジメント 作成



# 背景

## まちづくりの課題

- 都市基盤が概成し、今後土地活用が本格化するにあたり、良好な街並みや自然環境の形成、オープンスペースの利活用促進、歩行環境・交通利便性の向上など、地域資源を活かしながら空間の質を高め、“美園”に暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人それぞれにとって心地よい都市環境を維持・向上させていく必要がある。
- 地区内に立地する埼玉スタジアム2002が2020年東京オリンピックの競技会場となっており、地区の魅力を高め、国内外の来訪者をもてなす都市環境を形成する必要がある。

## 将来ビジョン(中長期)

- 『さいたま市総合振興計画(後期基本計画)(2013年12月改定)』及び『都市計画マスタープラン(2014年4月改定)』において、美園地区はスポーツ、健康、環境・エネルギーをテーマとする副都心の形成を目指すとしている。
- 「美園タウンマネジメント協会」および「みその都市デザイン協議会」において策定した『美園スタジアムタウン憲章』では、さいたま市の副都心の一つとして、本地区の象徴たる埼玉スタジアム2002をはじめとする地域資源を生かしながら、“美園”に暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人が、安心して快適かつ健康的なライフスタイルを実現しつつ、コミュニティの中で楽しく、豊かな時間を享受できる“スタジアムタウン”となることを目指し、まちづくりの基本理念「新価値創造都市」、「多世代健幸都市」、「次世代環境都市」を掲げている。

まちづくりの課題の解決、将来ビジョンの実現に向けて『美園地区都市再生整備計画』を策定。

# 1 計画の概要

計画の名称	美園地区都市再生整備計画
計画の期間	平成31年度～令和5年度(5年間)
計画の目標	<p>さいたま市の副都心の一つとして、本地区の象徴たる埼玉スタジアム2002をはじめとする地域資源を活かしながら、スポーツ・健康・環境をテーマとした良好な都市環境を形成する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 目標1 市の副都心に相応しい都市環境を形成する。</li><li>● 目標2 健康を育み、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境を形成する。</li><li>● 目標3 低炭素・循環型の持続可能な都市環境を形成する。</li></ul>
計画の成果目標 (定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"><li>① 地区内実施イベントの年間来訪者数を361,108人(平成29年度)から450,000人(令和5年度)に増加させる。</li><li>② さいたま市市民意識調査の「スポーツ・レクリエーションの振興／活動環境の充実」に関する満足度(緑区)を14.8%(平成30年度)から18.5%(令和5年度)に向上させる。</li></ul>
全体事業費	281.1百万円
計画変更の概要	<p>第1回変更 都市利便増進協定の制度活用について追加 第2回変更 都市利便増進施設(シェアサイクルポート)の整備及び管理について追加 第3回変更 事業費の修正</p>

# 1 計画の概要

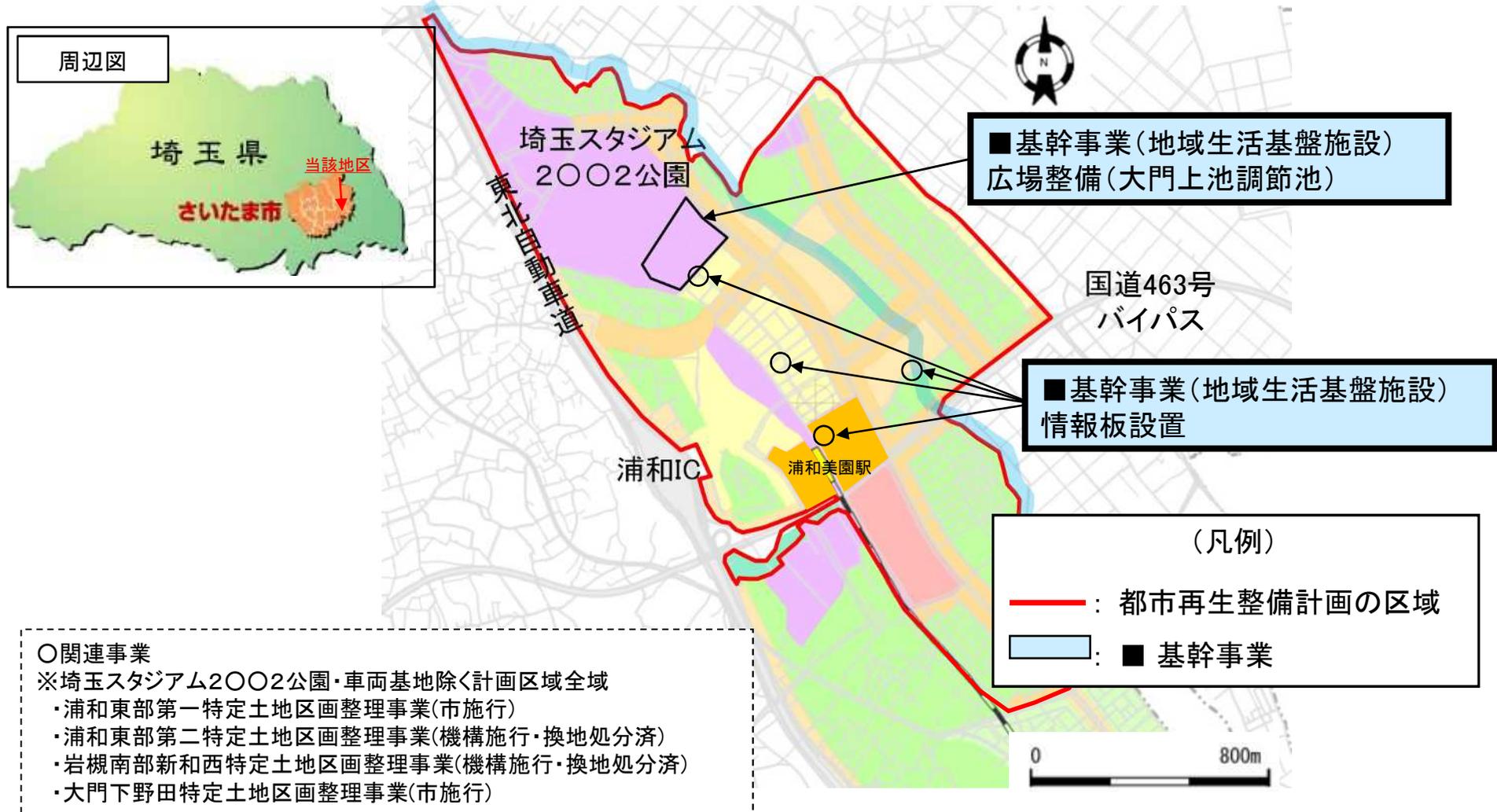
## 事業箇所の一覧

要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	事業実施年度					全体事業費 (百万円)
		H31	R2	R3	R4	R5	
美園地区都市再生整備 計画事業	地域生活基盤施設 広場 大門上池 調節池 A=42,000㎡						277.6
美園地区都市再生整備 計画事業	地域生活基盤施設 情報板 案内サイン 4基						3.5
合計							281.1

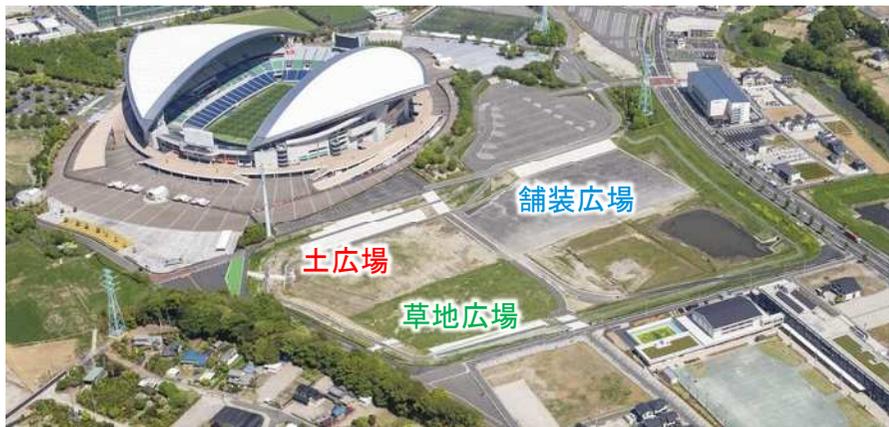


# 1 計画の概要

## 事業箇所図



## 2-1 地域生活基盤施設 広場 大門上池調節池



### これまでの経緯

- 平成30年3月 : 「美園スタジアムタウン: 河川空間活用計画」を策定

#### 主な利用用途

**土広場・草地広場エリア** : 「地域住民の余暇活動」、「サッカーなどスポーツ活動」、「集客イベント開催」

**舗装広場エリア** : 「二輪などのスポーツ活動」、「集客イベント」、「駐車場」

- 令和元～2年度 : 大門上池調節池底面広場整備工事
- 令和3年4月 : 埼玉県「水辺空間とことん活用プロジェクト」を活用し、広場の供用開始
- 令和3年11月 : 公民連携による管理運営検証によりイベント等専用利用による受付を開始

## 2-1 地域生活基盤施設 広場 大門上池調節池

整備位置



整備イメージ



## 2-1 地域生活基盤施設 広場 大門上池調節池



大門上池調節池 底面整備



【参考】利活用状況

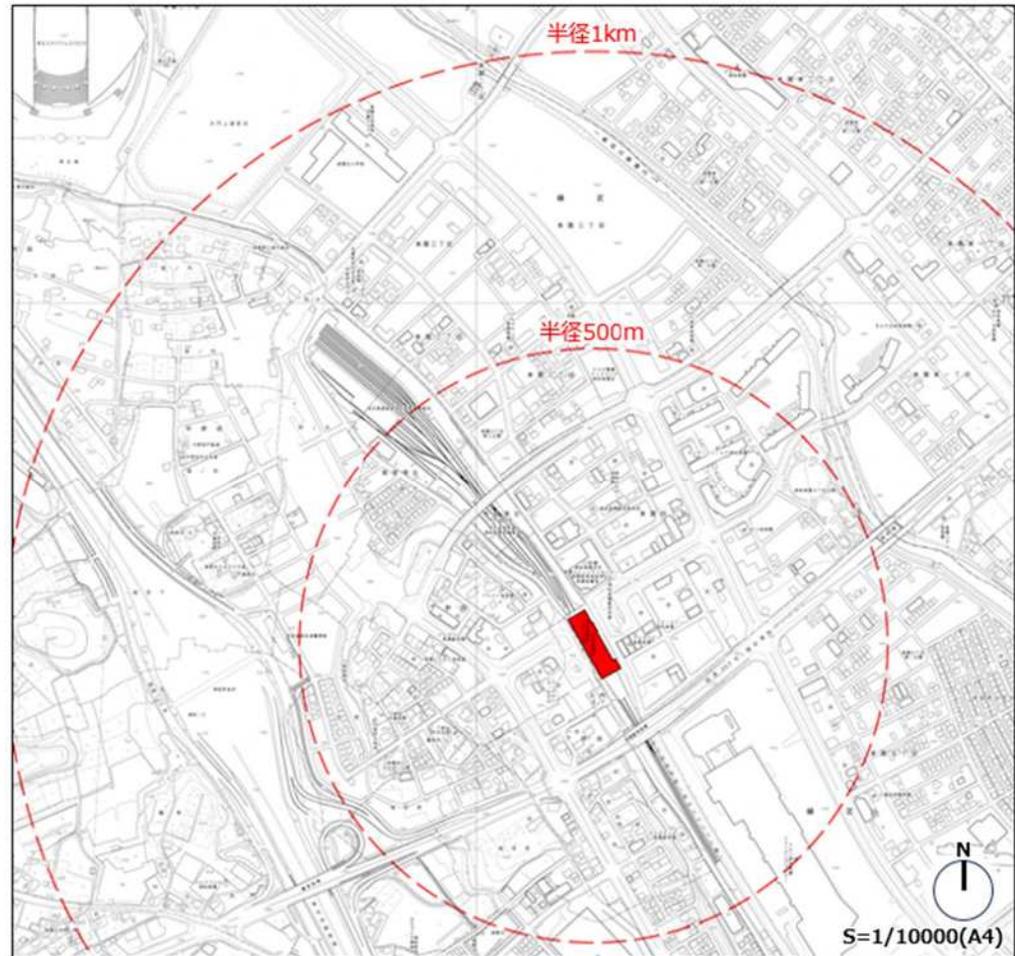
## 2-2 地域生活基盤施設 情報板

### 目的

- 本地区では、鉄道駅を中心に大規模な土地区画整理事業による新市街地形成が進められてきており、道路等の基盤整備や住宅・店舗等の建設も順次展開している。
- 平成13年開園の埼玉公園をはじめ、地区外からの来訪者も多い施設が立地するにもかかわらず、駅前広場付近の案内板や誘導板等サインを除いて、地区内のサイン整備が進展してこなかった。
- ウォーカビリティ・歩行回遊性の向上が重要なまちづくり課題となっているが、今後、医療福祉文教拠点施設用地での施設整備も計画されており、公共サインの果たす役割はますます重要となっている。

### 誘導対象範囲

- 浦和美園駅を起点とした徒歩圏(約500m圏)を中心に、主要公共・公益施設を含む範囲を対象とする。



## 2-2 地域生活基盤施設 情報板

- 市公共サインガイドラインを踏まえつつ、「主要拠点」・「中拠点」・「小拠点」の3階層でのネットワーク構成を設定し、各拠点におけるサイン種類を下表のとおり設定する。

拠点分類	主要拠点	中拠点	小拠点
デザイン例 ※市公共サイン ガイドラインより			
必要機能	行動起点における総合的情報の案内 (総合情報板：総合案内+誘導機能)	目的地に至る経路情報の案内 (立板型サイン：周辺案内+誘導機能)	目的地に至る経路情報の案内 (矢羽型サイン：誘導機能)
想定箇所	駅前広場	主要交差点、歩行動線上の分岐点	誘導経路上の交差点、分岐点
備考	※デジタルサイネージ機能の導入も合わせて後年整備検討予定		

今回設置

## 2-2 地域生活基盤施設 情報板

- 「主要拠点」、「中拠点」、「小拠点」の配置ネットワークを下図のとおり設定する。



## 2-2 地域生活基盤施設 情報板



小拠点サイン 3箇所



中拠点サイン 1箇所

### 3 事後評価(指標1)

- 指標1: 地区内実施イベントの年間来訪者数

⇒ 評価値は、**370,715人**となり、目標値450,000人を約80,000人下回る結果となった。

■ 指標1の従前値、目標値、評価値

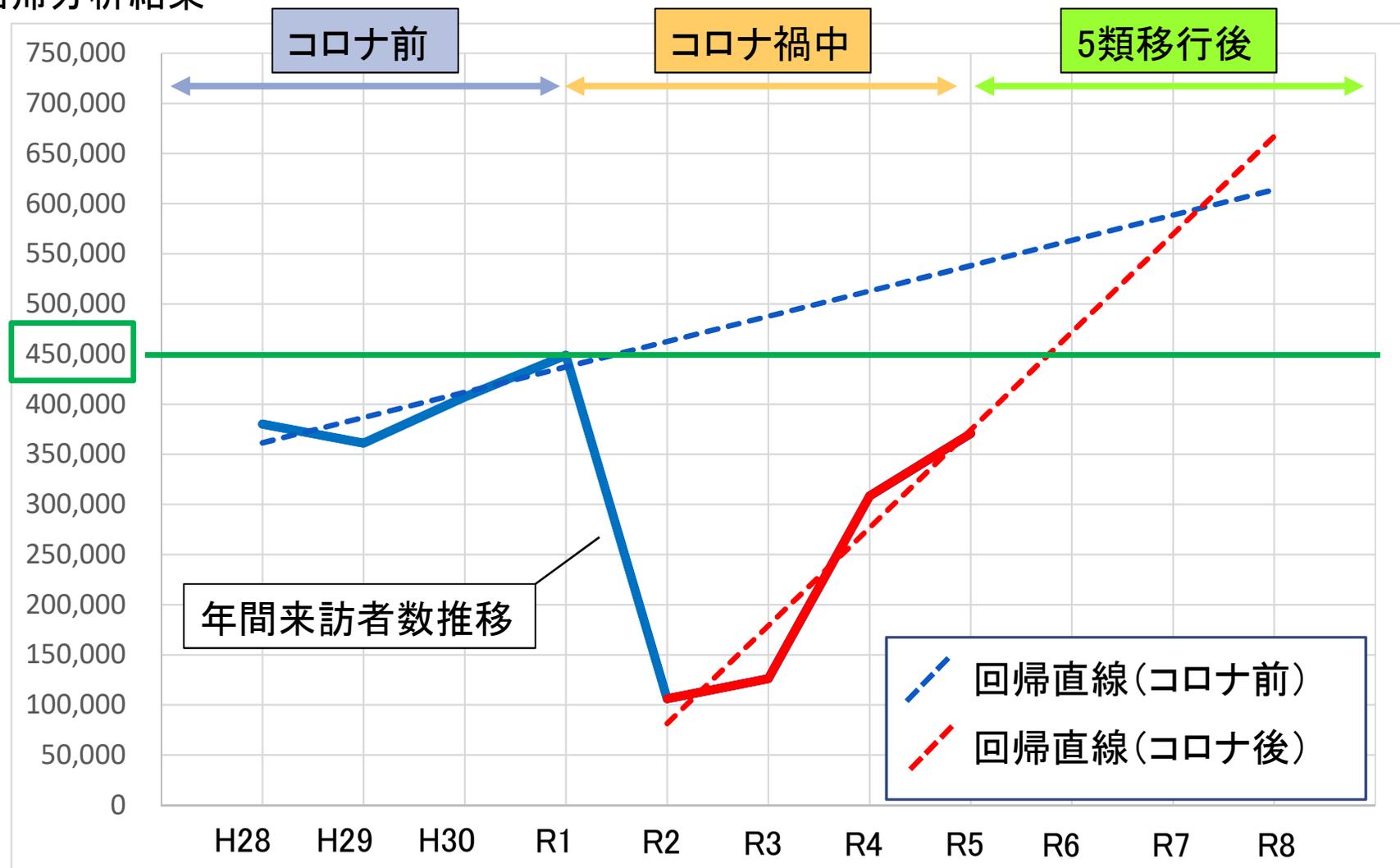
指標	H29 (従前値)	R5 (目標値)	評価値
地区内実施イベントの年間来訪者数を361,108人(平成29年度)から450,000人(令和5年度)に増加させる。	361,108 人	450,000 人	<b>370,715 人</b>

■ 目標値を下回った主な要因

- 新型コロナウイルスの流行による屋外イベントの開催数ならびに来訪者数が減少したことにより目標値を下回ったと考えられる。

### 3 事後評価(指標1に対する考察)

回帰分析結果



### 3 事後評価(指標2)

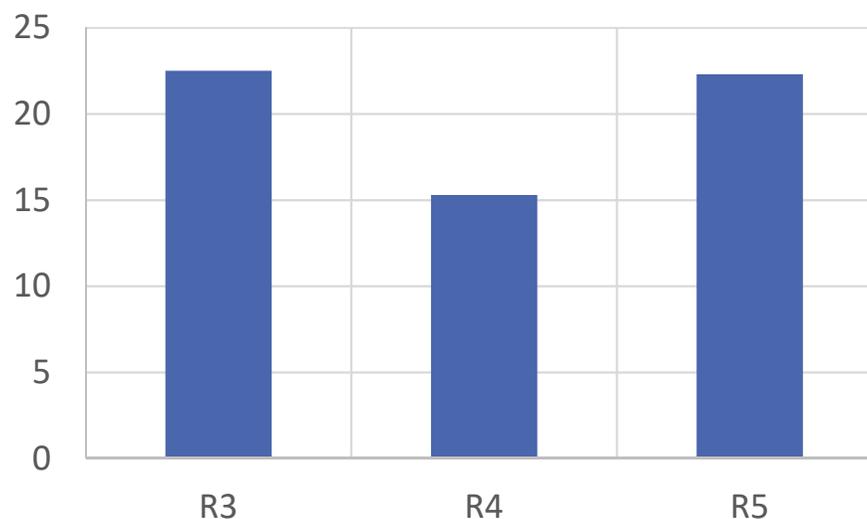
- 指標2:さいたま市市民意識調査の「スポーツ・レクリエーションの振興／活動環境の充実」に関する満足度(緑区)

⇒評価値は、**20.0%**となり、目標値18.5%を1.5%上回る結果となった。

■ 指標2の従前値、目標値、評価値

指標	H30 (従前値)	R5 (目標値)	評価値
さいたま市市民意識調査の「スポーツ・レクリエーションの振興／活動環境の充実」に関する満足度(緑区)を14.8%(平成30年度)から18.5%(令和5年度)に向上させる。	14.8 %	18.5 %	<b>20.0 %</b>

■ 満足度集計結果



過去3か年の平均  
**20.0%**

### 3 事後評価(指標2に対する考察)

---

- 大門上池調節池広場が整備されたことで、地域住民の様々なスポーツ活動や健康づくりに寄与し、満足度が向上したと考えられる。
- 特にインラインスケートやキッズバイク等、スポーツ活動目的の利用は毎週されている状況であり、満足度の向上につながっていると考えられる。
- 美園地区には健康器具が設置された公園が多く、情報板が設置されたことで、美園地区の主要な公共・公益施設の案内表示により歩行回遊性の向上のみならず、日常的な運動実施のきっかけづくり、習慣化に寄与し、満足度が向上したと考えられる。

## 4 今後の方針

- 指標1については、コロナ禍といった影響から、目標達成はならなかったものの、都市再生整備計画事業の実施により、まちづくりの課題解決に向けては成果があったものと評価。
- 今後もまちづくりが進展し、更なる人口増、まちの利用者増が見込める美園地区においては、取組の維持・向上が必要。

美園地区(第2期)都市再生整備計画を策定。更なるまちの魅力向上を図る。

計画の名称	美園地区（第2期）都市再生整備計画
計画の期間	令和6年度～令和10年度（5年間）
計画の目標	<p>大目標：さいたま市の副都心の一つとして、本地区の象徴たる埼玉スタジアム2002をはじめとする地域資源を生かしながら、スポーツ・健康・環境をテーマとした良好な都市環境を形成する</p> <p>目標1：市の副都心に相応しい都市環境の形成。</p> <p>目標2：健康を育み、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境の形成。</p> <p>目標3：地域の特色を活かした賑わい・滞留・交流の創出。</p>
計画の成果目標 (定量的指標)	<p>① 浦和美園駅周辺でのイベント参加者数（※第1期計画から継続） R4現況値308, 500人⇒R10目標値448, 400人</p> <p>② 浦和美園駅の乗降客数（定期利用者除く） R4現況値9,000人⇒R10目標値11,600人</p>